

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第36回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2015年2月9日 (月) 13:30~15:10
2. 場所 原子力安全推進協会 第3・第4会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)
(出席委員) 柳原主査, 武部副主査, 近江幹事, 坂下, 小畑, 柏木, 熊谷, 佐々木, 都筑 (9名)
(欠席委員) 岡本, 大浦, 田中, 伊藤 (4名)
(代理委員) 上野 (新津代理), 見上 (横田代理), 江河 (脇代理), (3名)
(常時参加者) 松本, 小野, 天澤 (3名) (江河常時参加者は脇委員の代理で出席),
(欠席常時参加者) 水井, 満田, 中山, 木原, 小足, 北島, 大塚 (7名)
4. 配付資料
F9Ph2SC36-1 第35回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案
F9Ph2SC36-2 第61回原子燃料サイクル専門部会コメント及び対応一覧(2014年11月18日)
F9Ph2SC36-3 第59回標準委員会コメント(2014年12月12日)
F9Ph2SC36-4-1 「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)20XX(案)」の決議投票結果について
F9Ph2SC36-4-2 余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)の標準委員会 書面投票コメント一覧表
F9Ph2SC36-4-3 余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)の標準委員会 書面投票コメントへの変更点比較表
F9Ph2SC36-5-1 原子力産業協会 輸送・貯蔵専門委員会 第67回(2014-5)定例会合のご案内について及び講演依頼について
F9Ph2SC36-5-2 輸送・貯蔵専門委員会 第67回定例会合向け
余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法
—日本原子力学会標準案について—
F9Ph2SC36-6 「LLW廃棄体等製作・管理分科会」の予定案

5. 議事

(1) 出席委員の確認

都筑委員から, 開始時に上野委員 (新津委員代理), 見上委員 (横田委員代理), 江河委員 (脇委員代理) の出席を含め 11 名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数 (11 名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(小畑委員は少し遅れて出席し, 最終的には合計 12 名の委員出席であった。)

(2) 前回議事録(案)の確認(F9Ph2SC36-1)

都筑委員から、第35回LLW廃棄体等製作・管理分科会の議事録(案)が紹介され、承認された。

(3) 第61回原子燃料サイクル専門部会(2014.11.18)専門部会時のコメント対応状況報告(F9Ph2SC36-2)

都筑委員よりF9Ph2SC36-2を用い、原子燃料サイクル専門部会(2014.11.18)専門部会時のコメント対応状況を報告し、了解された。

(4) 第59回標準委員会(2014.12.12)本報告時の質疑応答状況報告(資料F9Ph2SC36-3)

都筑委員より資料F9Ph2SC36-3を用い、第59回標準委員会(2014.12.12)本報告時の質疑応答状況を報告した。この件に関し下記のコメントがあったが、了解された。

Q:コメントNo.3の「固型化したものに関して核種移行評価はしているのか?」に対して「その通り」と回答しているが、この件は個別の埋設施設の条件を踏まえた評価になるのではないかと質問があった。

A:この件は、受入要件は、将来まとめることを理解された後(この前の質問で回答済み)での質問で、廃棄体製作時の固型化材料の核種移行(分配係数等)の評価に対する質問であり、試験評価されていることを標準委員会で了解頂いている。

(5) L1標準案の標準委員会 書面投票結果及びコメント対応案について

都筑委員より資料F9Ph2SC36-4-1を用い、標準委員会の書面投票結果及び全て賛成であったが2名の意見付き賛成があったことを報告した。2名の意見に関しては、柏木委員より資料F9Ph2SC36-4-2, 4-3を用いてそのコメント対応案について説明した。これに関し、以下のコメントがあり修正することとなった。

- ・資料F9Ph2SC36-4-3の附属書Gのコメント対応案で「制御棒レベルの高放射能濃度の固体状の放射性廃棄物と、充填材なしとの組み合わせ～」と記載されているが、「制御棒レベルの～」の例示について、表現の適正化を図り、「高放射能濃度の固体状の放射性廃棄物(放射化された制御棒など)と、充填材なしとの組み合わせ～」に修正する。

(6) 原子力産業協会 輸送・貯蔵専門委員会 第67回(2014-5)定例会合講演依頼について

都筑委員より資料F9Ph2SC36-5-1, 5-2を用い、原子力産業協会 輸送・貯蔵専門委員会 第67回(2014-5)定例会合講演依頼があったこと及びその講演資料の内容を紹介した。その結果、下記コメントがあり、反映・修正することとなった。

- ・スライド3のL1~L3の名称は、放射能レベルの比較的高い・低い・極めて低い廃棄物に修正し、VLLW, LLWは削除し、L1, L2, L3とすること。⇒拝承。
- ・スライド4の「六ヶ所」は公式でないため削除のこと。表中の主に対象廃棄物の欄の名称はスライド3と同様に修正する。⇒拝承。
- ・スライド5の「青栄丸」は使用済燃料の輸送船、例えば六栄丸に変更すること。⇒拝承。
- ・スライド6の「廃棄体の製作・検査方法(製作方法は制定済み)」とあるが、製作方法ではなく

製作要件として制定されていることから修正のこと。⇒拝承。標準のタイトルも要件となっているため、修正する。

- ・スライド 10 の右側の赤四角の標準（制定済）はその上の表のレベル 3 の内容を受けたものと誤解され易いため、赤字の「第二号 最大放射能濃度を超えない」から矢印で赤四角の標準（制定済）を結んだ方が良い。⇒拝承（表現方法を考えます）。
- ・スライド 12 の 2011 年 9 月から本標準を審議しているとの記載は年号順に並べ替えること。⇒拝承。
- ・スライド 34 の目次構成は、最初に標準全体を示した方が、理解され易いため、スライド 14 の付近に移すことが適当と考えられる。⇒検討します。

(7) 分科会等の今後の予定について

近江幹事より F9Ph2SC36-6 を用い、今後の分科会予定案について説明が行われた。次回の標準委員会で承認決議されれば、公衆審査に移行し、6 月の標準委員会で制定決議となることとなる。

また、柳原主査より以下について説明があり、了承された。

- ・公衆審査のコメント内容にもよるが、編集上の修正であれば主査一任とする。
- ・技術的なコメントの場合は再度分科会開催もありうる。

さらに、近江幹事より事業者から L3 取扱い標準の改定要望があるため、8 月頃に本分科会の再開を予定していることの紹介があった。

以 上